平成24年度　決算説明書／事務事業評価シート

課　名	環境衛生課

予算	款	項	目	決算書	
	4	2	4	208	頁

目　　名
清掃センター費

事業名称
一般廃棄物処理事業

1．概要

目的	一般廃棄物の適切な処理	対象	市民全般及び 臼杵市野津町市民

事業概要

○一般廃棄物処理事業・・・一般廃棄物の適切な処理とごみの減量化
・豊後大野市内1,236箇所、臼杵市野津町（旧野津町）261箇所に出された各種ごみ（可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ・有害ごみ・資源ごみ）を収集し、また、搬入されたごみを清掃センター施設において、焼却処理（可燃ごみ処理能力25t×2炉×16H/日）や分別後資源化処理（不燃・粗大ごみ処理能力22t×5H/日）するため事業を行った。

【処理実績】　可燃ごみ（10,707t）、粗大ごみ（628t）、不燃ごみ（207t）、資源ごみ（1,718t）、プラスチック（396t）処理合計13,656t

○一般廃棄物処理施設整備事業・・・安定した一般廃棄物処理のための施設の修理及び更新
・機器の修理・交換等を行い、施設の延命化を図り、廃棄物の適正な処理に努めた。

臨／経	細事業名称	事業内容（主な経費等）		予算現額（千円）	決算額（千円）	財源内訳				評価
						国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	一般廃棄物処理事業	嘱託職員　9名 委託業務	委託料	316,972	300,289			148,095	152,194	3
臨時	一般廃棄物処理施設整備事業	委託料　　1件 工事請負費　6件	工事請負費	51,739	42,441	2,994		5,399	34,048	3
計				368,711	342,730	2,994	0	153,494	186,242	

２．指標設定

成果指標	指標名	ごみ処理の適正化、ごみの減量化	目標年度	H27	指標の設定理由
	数値	186kg/人・年			総合計画／後期基本計画において、基本施策(2-2-1)の目標としているため

活動指標	指標	a	維持管理の適正化	b	ごみ分別の推進	c	公害対策と施設の基幹改良	d	外部委託の検討・見直し
	数値	目標	経常経費の削減	目標	市民の意識啓発を図る	目標	CO2の3%削減	目標	収集運搬・運転業務の委託の検討・見直し

３．実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４
ごみ処理の適正化、ごみの減量化	kg	200.0 kg	204.5 kg	214.7 kg
		93.0 %	90.9 %	86.0 %

活動指標名		単位	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４
a	維持管理の適正化	千円	302,955 千円	298,159 千円	300,289 千円
			―	―	―
b	ごみ分別の推進	回	12 回	12 回	12 回
			100.0 %	100.0 %	100.0 %
c	公害対策と施設の基幹改良		―	―	―
			―	―	―
d	外部委託の検討・見直し		―	―	―
			―	―	―

４．課題と対応

課題
人口は減少しているもののごみの排出量は横ばいである。ごみの質的多様化とこれを処理する施設能力の低下が懸念されている。ダイオキシン類への対応強化を含め、廃棄物処理施設の充実が課題である
対応（改善点等）
循環型社会形成めざし、ごみの分別徹底を推進するとともに、大規模改修を図り、施設の性能を回復させ、CO2の排出量削減を図る

５．事業費・・・Ｈ２２～Ｈ２４（決算額）、Ｈ２５（予算現額）

決算額（千円）	H22	H23	H24	H25
	387,406	411,391	342,730	325,733
うち経常経費	302,955	298,159	300,289	322,183
財源内訳 国費			2,994	
財源内訳 県費		35,668		
財源内訳 市債				
財源内訳 その他	162,256	156,301	153,494	139,280
財源内訳 一般財源	225,150	219,422	186,242	186,453
財源内訳 うち経常	151,357	141,858	152,194	182,902
事業費に係る人件費	72,265	70,950	70,847	71,921
事業費に係る人役	16.50	16.50	16.50	16.50

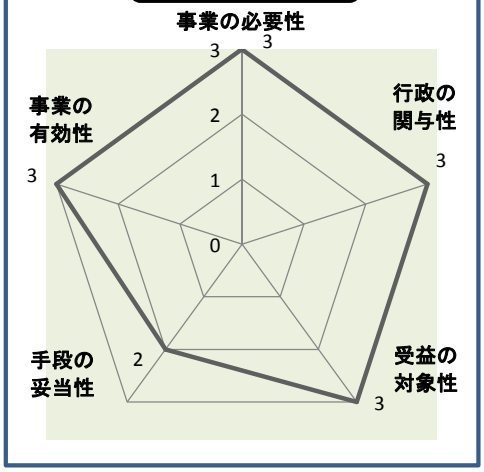
６．H２６年度予算の方向性

方向性
減額
理由
平成26年度からごみ収集の民営化に向けた検討を行うと同時に、経費の削減も併せて検討を行う。

７．担当課による分析

着眼点		分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	事業の必要性が高い
② 行政の関与性	責任領域の精査	3	法令等により、市が実施主体であることが定められている
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3	広く市民に享受できている
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2	目的達成のために適切な手段であるが、今後、検討の余地がある
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3	1人当たりのごみ量は増えており、ごみ減量化の達成には難しいものがあるが、ごみ処理の適正化の取り組みができている

分析グラフ



８．内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	施設長寿命化計画に基づき、施設改修を計画的に実施すること。(H25年度から4.2.6において別事業により実施。)